



## 6年生修学旅行 part I

昨日5日(火)～本日6日(水)まで、6年生は長崎に修学旅行に行ってきました。出発時には、雨が降っていましたが、長崎に向かう途中で、晴れ間が見え始め、長崎に着く頃は、すっかり天気も良くなりました。平和学習は、大村市のホテルで始まりました。そこでは、森田 宏さんという方から、被爆体験を聞くことができました。森田さんは、5年生のときに畑で遊んでいたときに被爆されたそうです。被爆後に、負傷した人々に水を飲ませ、水を飲んだ後、地べたに座り込んで亡くなった人を見たことや、戦時下の配給制の暮らして飢えていたお話など、戦時下における日本の様子を知ることができました。その話を聞いた子供は「今は、学校に行けば友達と笑い合えあえるし、家族とたくさん話もできる。今日の話を下級生に伝えていくことで、平和の思いを繋げていこうと思いました。」と感想を述べました。その後、フィールドワークを行いました。各班に一人ずつボランティアガイドさんについていただき、原爆の被害を受けた場所や施設を自分たちの足で歩きました。子供たちにフィールドワークの感想を聞くと、「事前に調べ学習やネットから情報は集めていたけど、今回たくさんの場所を見て回って、実際の原爆の被害の大きさを知ることができた。」「原爆資料館の写真や資料を見て、これ以上原爆や核を増やしたらいけないと実感した。」「山里小学校では、事前に原爆で焼け落ちた学校の様子を資料で見っていたけど、今ではきれいになっていて、その違いに驚いた。」「知っていたことや知らないことがわかって、これからの勉強に活かすことができると思う。」「山王神社の被爆クスノキは、原爆の被害の大きさがわかった。」など子供たちにとって深い学びとなったようです。また、フィールドワークの後は、原爆資料館の地下にある、追悼空間という場所で平和集会を行いました。その中で二度と核兵器を使わないために「真実を見つめる目を持ち、よい判断ができる力を付けること、正しいと思うことを勇気をもって実行すること、友達の本当の気持ちを理解すること」という言葉が印象的でした。追悼空間で歌った「地球星歌」は、美しい歌声が館内に響き渡り、その歌声を聞いた全ての人が心から感動しました。それぞれの平和への思いを胸に、集会に臨むことができたと思います。

